

会議の名称	令和元年度 第40回島田市諏訪原城跡整備委員会
開催日時	令和元年7月2日(火曜日) 13時45分から 16時00分まで
開催場所	島田市プラザおおるり 打合せスペース
会議の議題	《報告事項》 ●令和元年度 諏訪原城整備事業について ●諏訪原城跡周辺農業基盤整備工事計画について 《協議事項》 ●文化庁復元検討委員会の結果について ●諏訪原城跡実施設計について
会議の公開又は全部若しくは一部の非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ 非公開（全部 ・ 一部）
会議の全部又は一部の非公開の理由	
公開の場合の傍聴人の数	なし
出席者の氏名等	整備委員：小和田委員長、三浦副委員長、高瀬委員、加藤委員、大石教育部長 アドバイザー：五島昌也文化財調査官（文化庁）、田村隆太郎主査（県文化財課） 事務局：又平課長、山岸係長、萩原主任学芸員、渡邊技師、坂巻学芸員、田畑囑託員 文化資源活用課：大谷係長 実施設計業者：(株)フジヤマ3名
会議の結果	報告事項) ●令和元年度 諏訪原城整備事業について 史跡整備関係については、諏訪原城跡史跡整備事業（二の曲輪北馬出の土塁等の実施設計、サイン整備事業（遺構サイン3基設置予定）、諏訪原城跡パンフレット増刷する（12,000枚増刷予定）。 教育普及関係については、整備委員の先生（中井均先生）による諏訪原城講演会を令和2年2月2日（日）に開催予定、諏訪原城ビジターセンターの展示コーナーの活用、出前授業や小中学校の社会見学の対応、また、静岡県考古学会による研修会や沼津市・浜松市との協賛イベントの講演会（「続日本100名城とまちづくりについて」）を開催予定。 その他には、NPO法人里山仕事しょんた塾、金谷退職者福祉共催会等の市民団体等による環境整備事業。さらに、

本年度は島田市工業高等学校建築課の生徒に諏訪原城ジオラマ模型の製作を依頼し、令和2年2月末までに諏訪原城ビジターセンターへ設置し、お披露目式をおこなう予定。

諏訪原城の活用・プロモーションについては、お城エキスポ出展予定、諏訪原城プロモーション隊結成準備、令和2年以降プロモーションに向けて、全国に先駆けとなるユニークなイベント等を計画していく。

以上、各事業について報告し承認された。

整備委員会委員より、ビジターセンターのオープン後の評判について質問があり、市外からのお客さんは増えたが、市内からのお客さんの割合が少ない。今後、市民への諏訪原城の認知、さらにアピールしていく必要があると回答した。

諏訪原城跡農業基盤工事計画について

●農業基盤整備（茶畑を乗用型に切替える）が計画されており、事務局としては、諏訪原城跡保存管理計画を基準に関係各課との調整や地元との交渉等を進めていくことを報告。この計画の窓口については、静岡県文化財課がおこなうことになった。

〈協議事項〉

●文化庁復元検討委員会の結果について

五島調査官より、平成31年3月23日（金）の復元検討委員会の結果についての報告があった。復元県等委員会の中では、添付データ●復元検討委員会資料P9のA案、B案を進めるには、復元根拠が弱くさらなる追加説明が必要であり、復元は難しいだろう。また、復元でなければ、見学者が復元と思い込むような工作物は避けるべき、などという様々な意見が出されたということであった。現状では発掘調査による遺構の確認は望めないため、復元は不可能。現実的には、C案でよりB案に近い案、又は、門の近い部分、門の両サイドはより復元に近いものにしたい、というような意見が出された。整備委員会としては、現在のままでは見学者が曲輪の防御としての役割を理解できないため、土塁を含む門周辺整備は不可欠であることを確認し、今後の検討委員会へ向けての方向性について意見が交わされた。

まずは、事務局として、今回の整備委員会での意見を踏まえ、具体的に図面化し2案ほどを提示して更に検討していくこととなった。また、その際にB案の土壁を抜き骨組みを残す案を入れるよう指導を受けた。

●諏訪原城城実施設計について

実施設計業者が㈱フジヤマに決まったことを報告し、今後の実施設計のスケジュールについて説明があった。

提出された資料等	<ul style="list-style-type: none">● 令和元年度諏訪原城跡整備事業計画● 島田工業高等学校建築科ジオラマ模型作成● 保存管理区分説明● ゾーニング図● 復元検討委員会資料
会議を所管する課の名称	島田市教育委員会博物館課
その他必要な事項	